

第 1 号議案 役員の変更について

南信州地域交通問題協議会規約第 9 条第 1 項により改選を行う。

平成 29・30 年度南信州地域交通問題協議会役員

[敬称略]

役職名	所属名	氏名	備考
会長			
副会長			
監事			
監事			

(参考)

平成 27・28 年度南信州地域交通問題協議会役員

[敬称略]

役職名	所属名	氏名	備考
会長	南信州広域連合	牧野 光朗	南信州広域連合長
副会長	南信州広域連合議会議員	吉川 秋利	総務・文教・消防 検討委員長
監事	飯田商工会議所	柴田 忠昭	会 頭
監事	社会福祉法人 飯田市社会福祉協議会	福田 富廣	会 長

第 2 号議案 平成 28 年度事業報告及び決算報告について

1 地域住民に対する「南信州公共交通システム」の周知
圏域住民に「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から、公共交通を交通手段のひとつの選択肢と意識付けするための取組を行った。

(1) 南信州公共交通システム認知度向上事業 44,060 部 (全戸配布・一部組合回覧)

ア 「のってみまいか公共交通No.10 号 (12 月号)」

- ・目的別時刻表 (総合病院編その 1)

イ 「のってみまいか公共交通No.11 号 (3 月号)」

- ・目的別時刻表 (総合病院編その 2)
- ・路線番号、路線カラーを反映した方向幕について

(2) 公共交通に関するイベントの開催

ア はたらく車イベントにおけるバスの乗り方教室の開催

開催日 平成 28 年 4 月 10 日 (日)

場 所 アジマ自動車学校

受講者 50 名



イベントの様子



乗り方教室

イ バスのお仕事体験の開催

開催日 平成 28 年 9 月 11 日 (日)

場 所 南信州・飯田産業センター

体験者数 160 名



バスガイド体験



運転手体験 (運行前点検)

2 来訪者を含めた利用しやすい公共交通への取組

来訪者を含めた公共交通利用者の利便性向上に繋げるため、ナンバリングを反映した統一フォーマットによるバス時刻表を作成。

(1) 情報提供事業

南信州公共交通インフォメーションの運営。

URL <http://kk.minami.nagano.jp/>



3 既存公共交通の改善事業・利便性向上事業

公共交通をより利用しやすいものとするため、関係各機関と連携して改善を図る。

(1) 既存公共交通の運行見直しや乗り継ぎの改善

平成 28 年 12 月 21 日（水）にバスのダイヤ調整会議を開催し、接続路線におけるシームレスダイヤについて調整を図った。

(2) 案内表示の改善に取組

地域全体を考慮した方向幕の改修に係る検討を実施。圏域全体の路線バスカラー・ナンバリングを再検討し、平成 28 年度方向幕及び時刻表の作成に繋げた。



E0 阿島線 (左)



W0-1 駒場線

(3) 運転手研修会の開催

運転手に対する研修会を実施し、圏域全体の公共交通のサービスレベルの向上を図った。

開催日 平成 28 年 11 月 27 日（日）

場 所 飯田市役所 C311 会議室

講習内容 (1) 事故発生時の対応について (2) 接遇、車内放送について

(3) ディスカッション サービスの向上のために必要なことについて



講習会



ディスカッション

- (4) 各関係機関のはたすべき役割に対し側面的支援または協働実施。
各地域公共交通会議への出席。各地域公共交通会議と協働し利用促進・利用転換事業の推進を行った。
- (5) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくりに関する検討・研究。
 - ア 平成 28 年 12 月 5 日（月）に、幹事会委員及び市町村担当者により三重県伊勢市及び鳥羽市へ先進地視察を行った。
 - イ 公共交通担当により案内表示の改修や結節点の再検討を進めた。

4 公共交通利用促進事業

対象者ごとに利用促進事業を実施。

- (1) 中学生、高齢者に対する J R 飯田線及びバスの乗り方教室の実施。

阿南第一中学校	3 年生及び教員	40 名
阿南第二中学校	3 年生及び教員	10 名
下條中学校	3 年生及び教員	40 名
天龍中学校	1 年生及び教員	10 名
大鹿村中学校	3 年生及び教員	10 名
泰阜村高齢者クラブ		20 名



下條中学校でのバスの乗り方教室

- (2) 新入生（高校 1 年生）に対する公共交通利用啓発活動

南信州圏域の 8 高校におけるオリエンテーションの際に公共交通利用に関するチラシを配付。

配付枚数 1,757 枚

5 公共交通利用転換事業

対象者ごとに利用転換事業を実施。

- (1) エコ通勤（電車・バス）の啓発活動

ア 自家用車を利用している通勤層をターゲットとし、FMコミュニティを活用したエコ通勤の啓発活動を実施。

第 1 回 暑気払い時期 平成 28 年 8 月 1 日から平成 28 年 9 月 3 日 1 日 2 回放送

第 2 回 忘・新年会時期 平成 28 年 11 月 21 日から平成 28 年 12 月 26 日 1 日 2 回放送

第 3 回 歓送迎会時期 平成 29 年 3 月 20 日から平成 29 年 4 月 15 日 1 日 2 回放送

イ フリーペーパーへ公共交通の利用促進に関する内容を掲載し、多様な層を対象に啓発活動を実施。

月刊いいだ 8 月号(2016 年)へ掲載 32,000 部

月刊いいだ 11 月号(2016 年)へ掲載 32,600 部

月刊いいだ 4 月号(2017 年)へ掲載 32,600 部

6 結節点停留所整備事業

交通拠点の一つである飯田駅前観光案内所内に電子端末機を設置し、JR飯田線を含めた発車情報や乗継案内情報を発信。



電子端末機



平成28年度 南信州地域交通問題協議会 会計決算書

収入金額	11,812,698 円
支出金額	11,090,848 円
差引残額	721,850 円

(収入)

(単位: 円)

科目	当初予算額	補正予算	決算額	比較増減	備考
負担金	3,041,000	0	3,041,000	0	南信州広域連合負担金
国庫補助	0	2,178,036	2,178,036	2,178,036	計画推進事業補助金
市町村負担金	0	4,156,272	4,156,272	4,156,272	時刻表等(計画推進事業) 飯田市 2,813,400、松川町 269,352 阿南町・下條村・売木村・天龍村・泰阜村 416,880、阿智村 656,640
繰越金	2,437,231	0	2,437,231	0	前年度繰越金
諸収入	769	0	159	△ 610	利息
計	5,479,000	6,334,308	11,812,698	6,333,698	

(支出)

(単位: 円)

科目	予算額	補正予算	決算額	比較増減	備考
運営費	610,000	0	245,148	△ 364,852	
報償費	210,000	0	103,761	△ 106,239	委員等報償費(幹事会1回、総会1回)
旅費	400,000	0	141,387	△ 258,613	委員旅費(委員会1回、総会1回)、先進地視察
需用費	10,000	0	9,311	△ 689	
消耗品・事務費	10,000	0	9,311	△ 689	コピー用紙ほか
役務費	250,000	0	114,226	△ 135,774	
通信運搬費	150,000	0	57,476	△ 92,524	通信運搬費、振込手数料
使用料	100,000	0	56,750	△ 43,250	高速道路使用料ほか
事業費	4,600,000	6,334,308	10,722,163	△ 212,145	広報誌、結節点整備事業、南信州公共交通インフォメーションの維持管理、時刻表、市町村戻入費等
予備費	9,000	0	0	△ 9,000	
計	5,479,000	6,334,308	11,090,848	△ 722,460	

差引残高

721,850 円 は次年度に繰り越します。

平成28年度南信州地域交通問題協議会収入支出決算監査報告書

平成28年度南信州地域交通問題協議会会計の収入支出決算について監査した
ところ、諸帳簿、証拠書類ともに整備され、正確に処理されていることを認め
ます。

平成29年 5月 3日

監 事

福田 富 廣



平成29年 6月 7日

監 事

柴 田 忠 昭



第 3 号議案 平成 29 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

1 南信州公共交通システム認知度向上事業 事業費 300 千円

圏域住民に「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から、公共交通を交通手段のひとつの選択肢と意識付けするための利用促進・転換事業の推進を行う。

(1) 広報誌の発行（年度内 2 回予定）

南信州広域連合発行の広報誌の中に『のってみまいか公共交通』を掲載し、公共交通利用への関心を高める。

(2) イベントと連携した公共交通の認知度向上

さまざまな層をターゲットとしたイベントに参画し、公共交通への意識や関心を持ってもらう。（お仕事キッズタウンへの参画等）

2 情報発信事業 事業費 500 千円

- ・ Web サイト「南信州公共交通インフォメーション」の管理運営

当圏域の公共交通に関する情報や利用者にとって分かりやすい路線図・時刻表（目的別時刻表等）をインターネット上で提供し、来訪者を含めた利用者の利便性向上につなげる。

3 既存公共交通の改善事業・利便性向上事業 事業費 450 千円

公共交通をより利用しやすいものとするため、当圏域における関係各機関と連携し改善と利便性の向上を図る。

(1) 関係機関と連携した公共交通の改善・利便性向上

- ・ 名古屋大学等と連携し利用促進・利用転換につながる事業の検討を行う。
- ・ 関係機関との情報交換等の実施により、既存公共交通の運行見直しや乗り継ぎの改善を図る。

(2) 利用者に分かりやすい案内表示等の整備

- ・ ナンバリングを導入し、バスの方向幕や時刻表と連動させ利用する路線を明確に表示することで、はじめて利用する方でも安心して乗車することができる環境を整備する。
（LED 方向幕：松川町、大鹿村 ナンバリングカラーと連動したマグネット：松川町、天龍村）
- ・ 景観標識を考慮したバス停留所の統一デザインに関する研究 [地域交通ベストミックス構築事業]
- ・ 結節点となる主要な停留所へのバスロケーションシステムの導入の検討 ["]

(3) 関係機関の果たすべき役割に対し側面的支援または協働の実施

(4) 南信州地域公共交通網形成計画に基づき、地域公共交通の再編について、引き続き各市町村と連携し研究

4 利用促進事業 事業費 200 千円

対象者ごとに利用促進事業を実施し利用者拡大を図る。

- ・ 中学生、高校生、高齢者、企業などの対象者別にバスのワークショップを開催し、利用者の拡大を図る。
- ・ 共通回数券・共通定期の導入に向けた研究 [地域交通ベストミックス構築事業]

5 利用転換事業 事業費 150千円

対象者ごとに利用転換事業を実施し利用者拡大を図る。

- (1) FMコミュニティ等のマスメディアを活用し、自家用車を利用する通勤者に対し、公共交通を利用したエコ通勤の啓発活動を実施する。
- (2) JR飯田線を含めた公共交通の利用促進・利用転換事業を図る。

6 リニア中央新幹線開業を見据えた二次交通の研究・検討事業 事業費 830千円

- ・利用実態調査を踏まえ、生活交通の利便性向上と観光交流活性化の両面から結節拠点を含めた持続可能な公共交通の研究・検討を行う。[地域交通ベストミックス構築事業]

第3号議案

平成29年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

平成29年度 南信州地域交通問題協議会 収支予算（案）

収入金額	2,912,000 円
支出金額	2,912,000 円
差引残額	0 円

（収入）

（単位：千円）

科 目	H29予算	H28当初予算	比較増減	備 考
負担金	2,190	3,041	△ 851	南信州広域連合負担金 2,190千円
繰越金	721	2,437	△ 1,716	前年度繰越金
諸収入	1	1	0	
計	2,912	5,479	△ 2,567	

（支出）

（単位：千円）

科 目	H29予算	H28当初予算	比較増減	備 考
運営費	250	610	△ 360	
報償費	150	210	△ 60	委員等報償費（幹事会2回、総会2回）
旅費	100	400	△ 300	講師・委員等旅費（幹事会2回、総会2回）ほか
需用費	10	10	0	
消耗品費	10	10	0	消耗品
役務費	215	250	△ 35	
通信運搬費	150	150	0	通信運搬費、振込手数料（アンケートほか）
使用料	65	100	△ 35	高速道路使用料等
事業費	2,430	4,600	△ 2,170	1 南信州公共交通システム認知度向上事業 300千円 2 情報提供事業 500千円 3 改善事業・利便性向上事業 450千円 4 利用促進事業 200千円 5 利用転換事業 150千円 6 結節点整備事業 830千円
予備費	7	9	△ 2	
計	2,912	5,479	△ 2,567	

予算の執行上必要があるときは、科目間の流用ができるものとする。

第 4 号議案 地域交通ベストミックス構築事業について

(様式第 1 号)

平成 29 年 5 月 10 日

地域交通ベストミックス構築事業補助金申出書

1 市町村名等 南信州地域公共交通問題協議会

2 地域交通の現状と課題

南信州地域（以下「当地域」という。）は、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村（以下「14 市町村」という。）から構成されており、中央アルプスと南アルプスに囲まれた伊那谷の南部に位置し、総面積 1,929 km² のうちの約 86% を森林が占めている。また盆地のほぼ中央を流れる天竜川沿いに河岸段丘が広がり起伏に富んだ地形が形成されている。このような地形的特徴を持つ当地域での主な移動手段は専ら自家用車であり、それに伴い公共交通の需要は年々減少している。

しかし、自家用車を運転できない高齢者や、高校生を中心とする学生等は、日常の移動手段として電車やバス等を利用しており、今後継続的に公共交通を守り育てていくことが、当地域にとって喫緊の重要課題のひとつとなった。こうした課題の解決には、市町村の枠を越えた公共交通の維持・確保が必要であることから、当地域の 14 市町村を中心に、道路管理者、公安委員会等の行政機関と公共交通事業者、福祉事業者、環境関連団体、公共交通利用者等が一堂に会し、「南信州地域交通問題協議会」を地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下「活性化再生法」という。）に基づく法定協議会として設立した。

当地域全体の公共交通に関するマスタープランとして「南信州地域公共交通総合連携計画」を策定したが、平成 26 年の活性化再生法の改正を受け、住民や来訪者の移動手段確保はもとより、福祉、教育、観光なども含めたまちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成を進めるために、平成 28 年 3 月に「南信州地域公共交通網形成計画（以下「南信州網形成計画」という。）」を策定した。

現状と課題については以下のとおりである。

＜現状＞

- 中山間地域の定時定路線バスでの若年層の人口減に伴う利用者数の減少のほか、潜在的な公共交通利用者である高齢者層の運転免許保有率が高く、利用者数が減少している。
- 地区別エリア制運賃を導入し、路線間における運賃格差を是正した。
- 車両更新や利便性向上策に伴い運行経費が増加している。
- 他系統との路線重複が多く非効率な運行を行っている。

＜課題＞

- ◇中山間地域における人口減少に伴う利用者数の減少が続いている。
- ◇高齢者の買い物や通院及び学生における通学、通勤における利用しづらさ。
- ◇利用者が減少する定時定路線バスの公費負担額の増大。
- ◇公共交通に対する住民の意識の醸成が進まない。
- ◇路線による重複区間での運賃不統一。
- ◇リニア中央新幹線を視野に入れた既存公共交通の改善、利便性向上に向けた研究・検討。

※ 地域交通の現状及び課題について、補助金交付要綱別表第 2 の観点から簡潔に記載

3 地域において取り組んでいる交通施策等の概要

1 地域住民に対する「南信州公共交通システム」の周知

圏域住民に「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から、公共交通を交通手段のひとつの選択肢と意識付けするための取組を行った。

(1) 南信州公共交通システム認知度向上事業 44,060部全戸配布・一部組合回覧

ア 「のってみまいか公共交通No.10号(12月号)」

・目的別時刻表(総合病院編その1)

イ 「のってみまいか公共交通No.11号(3月号)」

・目的別時刻表(総合病院編その2)

・路線番号、路線カラーを反映した方向幕について

(2) 公共交通に関するイベントの開催

ア はたらく車イベントにおけるバスの乗り方教室の開催

開催日 平成28年4月10日(日)

場 所 アジマ自動車学校

受講者 50名

イ バスのお仕事体験の開催

開催日 平成28年9月11日(日)

場 所 南信州・飯田産業センター

体験者数 160名

2 来訪者を含めた利用しやすい公共交通への取組

来訪者を含めた公共交通利用者の利便性向上に繋げるため、ナンバリングを反映した統一フォーマットによるバス時刻表を作成。

○情報提供事業

南信州公共交通インフォメーションの運営。URL <http://kk.minami.nagano.jp/>

3 既存公共交通の改善事業・利便性向上事業

公共交通をより利用しやすいものとするため、関係各機関と連携して改善を図る。

(1) 既存公共交通の運行見直しや乗り継ぎの改善

平成28年12月21日(水)にバスのダイヤ調整会議を開催し、接続路線におけるシームレスダイヤについて調整を図った。

(2) 案内表示の改善に取組

地域全体を考慮した方向幕の改修に係る検討を実施。圏域全体の路線バスカラー・ナンバリングを再検討し、平成28年度方向幕及び時刻表の作成に繋げた。

(3) 運転手研修会の開催

運転手を対象とした研修会を実施し、圏域全体の公共交通のサービスレベルの向上を図った。

・開催日 平成28年11月27日(日)

・場 所 飯田市役所 C311会議室

・講習内容

(1) 事故発生時の対応について

(2) 接遇、車内放送について

(3) ディスカッション サービスの向上のために必要なことについて

(4) 各関係機関のはたすべき役割に対し側面的支援または協働実施

(5) リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくりに関する検討・研究。

ア 平成28年12月5日(月)に、幹事会委員及び市町村担当者により三重県伊勢市及び鳥羽市へ先進地視察を行った。

イ 公共交通担当により案内表示の改修や結節点の再検討を進めた。

4 公共交通利用促進事業

対象者ごとに利用促進事業を実施。

(1) 中学生、高齢者に対するJR飯田線及びバスの乗り方教室の実施。

阿南第一中学校 3年生及び教員 40名

阿南第二中学校 3年生及び教員 10名

下條中学校 3年生及び教員 40名

天龍中学校 1年生及び教員 10名

大鹿村中学校 3年生及び教員 10名

泰阜村高齢者クラブ 20名

(2) 新入生(高校1年生)に対する公共交通利用啓発活動

南信州圏域の8高校におけるオリエンテーションの際に公共交通利用に関するチラシを配付。配付枚数 1,757枚

5 公共交通利用転換事業

対象者ごとに利用転換事業を実施。

(1) エコ通勤(電車・バス)の啓発活動

ア 自家用車を利用している通勤層をターゲットとし、FMコミュニティを活用したエコ通勤の啓発活動を実施。

第1回 暑気払い時期 H28年8月1日からH28年9月3日 1日2回放送

第2回 忘・新年会時期 H28年11月21日からH28年12月26日 1日2回放送

第3回 歓送迎会時期 H29年3月20日からH29年4月15日 1日2回放送

イ フリーペーパーへ公共交通の利用促進に関する内容を掲載し、多様な層を対象に啓発活動を実施。

・月刊いいだ8月号(2016年)へ掲載 32,000部

・月刊いいだ11月号(2016年)へ掲載 32,600部

・月刊いいだ4月号(2017年)へ掲載 32,600部

6 結節点停留所整備事業

中心地の拠点である飯田駅前観光案内所内に電子端末機を設置し、JR飯田線を含めた発車情報や乗継案内情報を発信。

※ 必要に応じ、これまで取り組んできた交通施策等の概要も記載

4 本事業により新たに取り組もうとする施策の概要（現時点で想定されるもの）

- ①2027年のリニア中央新幹線の開業を見据えて、北部ブロックにおける既存公共交通の利用実態調査を行い、運行再編も視野に入れた公共交通の研究・検討を行う。北部ブロックの選定理由については、南部や西部ブロックに比べて運行形態、運行ルート等が複雑であること、リニア中央新幹線長野駅との接続に関わりを受けやすいこと、豊丘村と大鹿村に道の駅が新たに設置されることから結節拠点の検討も合わせて行えるため。
- ②当地域には32【基幹（3）、准基幹（5）、支線（24） ※デマンドタクシーは除く】もの運行路線があり、複数の運行事業者が存在しており、また運賃の考え方も異なっている。共通回数券や共通定期等といった利用促進につながるソフト事業の研究できる体制を整備し、料金（運賃）体系の統一や重複区間運行の改善にもつなげたい。
- ③利便性向上につなげるため、②と合わせて結節点となる主要な停留所にバスロケーションシステムの導入、ナンバリングカラーと連動した分かりやすい案内表示等、必要なハード整備の研究・検討も行いたい。

5 事業経費

事業項目	補助対象事業費
①リニア中央新幹線を見据えた二次交通の検討 内容：利用実態調査（対象：北部ブロック5町村のうち2～3）	1,500,000円
②利用促進につながるソフト整備の研究 内容：共通回数券・共通定期等	73,200円
③利便性向上につながるハード整備の検討・実施 内容：バスロケーション導入の検討やナンバリングカラーのマグネットの設置 ※②と合わせて検討	226,800円
合計	1,800,000円

6 補助金交付希望額 900千円

7 事業の実施体制（現時点で想定されるもの）

南信州地域公共交通問題協議会 （構成団体：14 市町村、道路管理者、公安委員会等の行政機関と公共交通事業者、福祉事業者、環境関連団体、公共交通利用者等）

8 事業の実施スケジュール

(1) 本年度の事業

時期	事業内容・スケジュール
5月8日	南信州地域公共交通問題協議会 幹事会の開催 当該事業の協議・承認
6月21日	南信州地域公共交通問題協議会 総会の開催 当該事業の協議・承認
7～3月	○運行利用実態調査（北部5町村のうち2～3自治体） ○関係機関との打ち合わせ（必要に応じて2～3回開催予定） （内容） ・利用促進及び利便性向上につながる事業等の研究・検討

(2) 翌年度以降の事業

想定する事業内容（30年度）	想定する事業内容（31年度）
①リニア中央新幹線を見据えた二次交通の検討 内容：利用実態調査（対象：北部ブロック5町村のうち2～3）	①リニア中央新幹線を見据えた二次交通の検討 内容：運行再編の検討 （対象：北部ブロック5町村）
②利用促進につながるソフト整備の検討 内容：共通回数券・共通定期等	②利用促進につながるソフト整備の実証運用 内容：共通回数券・共通定期等
③利便性向上につながるハード整備の検討・実施 内容：バスロケーション導入の検討やナンバリングカラーのマグネットの設置 ※②と合わせて検討	③利便性向上につながるハード整備の検討・実施 内容：バスロケーション導入の検討やナンバリングカラーのマグネットの設置 ※②と合わせて検討

〔添付資料〕

- ・市町村または広域連合以外の場合は設立趣旨や活動内容が分かる書類
- ・地域協議会の設置要綱及び事業計画書
- ・現状の地域交通に関する資料（運行経路図、時刻表等）
- ・選定基準に基づく審査に必要と思われる資料（必要に応じて添付）

担当部署	南信州地域公共交通問題協議会 （南信州広域連合事務局 広域振興係）
担当者名	一柳 和宏
電話番号	0265-53-7100
F A X	0265-53-7155
E-mail	k.ichiyonagi@minami.nagano.jp

第 5 号議案 地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」について

飯田市 生活交通確保維持改善計画

<地域間幹線系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1－5 . . . P 5

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 6～11
- ・表 1 . . . P 12

松川町 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1 . . . P 5

下伊那南部地域 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～7
- ・表 1 . . . P 8

阿智村 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1 . . . P 5

根羽村・平谷村地域 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～6
- ・表 1 . . . P 7

喬木村 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1 . . . P 5

豊丘村 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1 . . . P 5

大鹿村 生活交通確保維持改善計画

<地域内フィーダー系統>

- ・生活交通確保維持改善計画（平成 30～32 年度） . . . P 1～4
- ・表 1 . . . P 5

南信州圏域のバス利用実績（平成28年度）

H28年4月～H29年3月
（単位：人）

路線体系	路線名	H28	H27	比較	
		4月～3月	4月～3月	増減数	前年対比
基幹	駒場線	232,863	228,467	4,396	101.9%
"	阿島線	23,105	24,181	△ 1,076	95.6%
"	阿南線（阿南～飯田） ※温田線含む	42,930	44,542	△ 1,612	96.4%
准基幹	遠山郷線	15,305	18,761	△ 3,456	81.6%
"	平岡線（路線バス）	1,997	2,141	△ 144	93.3%
"	市民バス循環線 （右回り、左回り）	83,266	84,406	△ 1,140	98.6%
"	西部コミュニティバス	11,610	12,874	△ 1,264	90.2%
"	大鹿線	8,505	10,184	△ 1,679	83.5%
支線	市民バス大休線	3,936	4,311	△ 375	91.3%
"	市民バス千代線	2,644	3,109	△ 465	85.0%
"	市民バス久堅線	3,466	2,672	794	129.7%
"	市民バス三穂線	2,702	3,631	△ 929	74.4%
"	上片桐循環線	10,281	11,555	△ 1,274	89.0%
"	大島循環線	3,980	4,520	△ 540	88.1%
"	生田循環線	5,350	5,478	△ 128	97.7%
"	生田線	8,009	8,990	△ 981	89.1%
"	部奈線	7,194	7,027	167	102.4%
"	泰阜線	197	384	△ 187	51.3%
"	阿南町民バス	5,012	8,581	△ 3,569	58.4%
"	伍和・智里東	5,754	6,213	△ 459	92.6%
"	春日・智里西	5,657	5,476	181	103.3%
"	清内路巡回	8,811	8,156	655	108.0%
"	浪合巡回	1,757	1,603	154	109.6%

路線体系	路線名	H28	H27	比較	
		4月～3月	4月～3月	増減数	前年対比
支線	天龍村営バス	3,610	4,328	△ 718	83.4%
"	氏乗線	4,232	4,574	△ 342	92.5%
"	喬木大島線	2,091	2,590	△ 499	80.7%
"	コミュニティバス阿島線	1,456	—	H28から運行	—
"	コミュニティバス伊久間線	1,414	—	H28から運行	—
"	堀越線	1,749	1,449	300	120.7%
"	佐原線	1,225	1,754	△ 529	69.8%
"	壬生沢線	405	350	55	115.7%
"	福島線	102	241	△ 139	42.3%
"	壬生沢福島線	334	442	△ 108	75.6%
"	滝川阿島北県道線	1,767	1,752	15	100.9%
全路線バス利用者数 合計		512,716	524,742	△ 12,026	97.7%

南信州圏域の乗合タクシー利用実績（平成28年度）

H28年4月～H29年3月
(単位：人)

路線体系	路線名	デ マ ン ド	H28	H27	比 較	
			4月～3月	4月～3月	増減数	前年対比
准基幹	上市田線	併	2,272	2,685	△ 413	84.6%
〃	平岡線（乗合タクシー）	レ	3,783	3,813	△ 30	99.2%
支線	かざこし線	レ	2,190	2,110	80	103.8%
〃	三穂線	レ	3,299	3,585	△ 286	92.0%
〃	川路線	レ	1,573	1,643	△ 70	95.7%
〃	竜東線	レ	7,789	8,000	△ 211	97.4%
〃	遠山郷線	レ	393	608	△ 215	64.6%
〃	上村線	レ	144	170	△ 26	84.7%
〃	下栗線	レ	267	243	24	109.9%
〃	須沢線	レ	165	155	10	106.5%
〃	上島線	レ	30	16	14	187.5%
〃	八重河内線	レ	1,323	1,314	9	100.7%
全乗合タクシー利用者数 合計			23,228	24,342	△ 1,114	95.4%

併：一部定時路線
レ：デマンド

計画推進事業について

1 計画推進事業とは

地域公共交通網形成計画に基づく、利用促進事業や計画の達成状況等の評価に係る事業に対する国庫補助。

2 事業主体

南信州地域公共交通網形成計画の計画区域

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の14市町村。

3 補助対象期間及び補助額

(1) 補助対象期間 2年間(平成28・29年度)

(2) 補助額 申請費の1/2

4 平成28年度実施内容

(1) 行き先や乗車車両をわかりやすくするための案内整備(バスラッピング)

(2) わかりやすい時刻表の作成

(3) 子供やバス未利用者を対象としたバスの乗り方教室の実施

総事業額 4,356,072円 補助額 2,178,036円

5 平成29年度補助内容(案)

実施項目	実施内容
わかりやすい時刻表の作成	路線番号、カラー、統一様式を考慮し、乗継のわかりやすい時刻表を作成する。 ①飯田市(路線バス 53,600部) ②松川町(5,000部) ③阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村(6,000部) ④阿智村(3,000部) ⑤喬木村(3,000部)